

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
1	文化5年4月19日	晴天	5月14日	甲浦・東股	甲浦	土州にては甲浦峠と言。峠より七、八丁にして右側に番所遍路切手出す。東股番所と言。是より甲浦人家続。 九時過甲浦着 四人 日蓮宗 万福寺 土佐国安喜郡 伊能 浄土 超願寺	朝より晴天。午前曆局行書状を関権治郎に渡し九ツ後穴喰浦出立し本道を行く。阿洲土洲界造関権次郎、樋富菊郎、郡代手代四人樟取手伝足軽十一人〔姓名前出〕送別す。又土洲郡方下役北岡十右衛門浦方下役宮崎竹助、甲浦庄屋島崎快藏、年寄吉松礼助出迎え、直に案内し八ツ前甲ノ浦へ着。〔国界前阿洲の番所の地を穴喰の古目と言い日本図に有。土洲の入口番所の地を甲ノ浦の東股と云い、又西股あり。〕止宿は本陣浄土宗南谷山超願寺、脇宿日蓮宗一知常堅山万福寺。着後郡代下役北岡十右衛門、浦方下役宮崎竹助外、普請方下役広井小左衛門、浦方横目岡村忠治郎、根来琢八、横田多良平、弘瀬亀八外に休泊用達沢田源助、松村七之進同加はり樋口喜助、三木義四郎、勘定役松島忠藏等出る。其後浦方奉行森俊平出る。郡奉行同格のよし。土佐国海辺測量險難の儀を云う。此夜曇る。雲間に測る。
2	文化5年4月20日	晴天	5月15日	甲浦 生見（中飯） 野根	野根	一今六時過出立甲の浦阿波国海部郡穴喰浦、土佐国安喜郡甲の浦境に而測量始。二里計りにて同郡野根浦に至る。 泊り夕八半時着 四人 安屋忠次郎 中飯生見村浜 伊 小脇屋五郎 兵衛	薄曇。朝六ツ半頃土洲安喜郡甲ノ浦出立。手分けし我等、下河辺、柴山、青木、稻生甲浦止宿下より初め、逆に阿洲土洲の界昨十八日測留杭へ繋ぎ、夫より又、止宿下へ引返し、順に白浜浦河内村生見村相間（野根の内）、野根浦へ八ツ後に着。着前大雨。坂部、文助、葛島赤葉島を測り、夫より唐人岬船藏ノ岬を測り八ツ半後野根浦へ着。本陣五郎左衛門、脇忠三郎。此夜晴曇雲間に測る。川内村庄屋小川忠吾、野根浦庄屋安岡佐近助出て案内。
3	文化5年4月21日	晴天	5月16日	野根 ころころ石 大谷の浜（中 飯） 佐喜浜	佐喜浜	一今六時頃過出立野根海辺より測量始。海岸即四国八十八ヶ所遍路道に而飛石筑（跳）石ころころ石といふ岩石上を歩行道あり。夫より佐喜浜浦に至る。 中食 野根浦大谷の浜持出也。 泊り 佐喜浜浦八半時頃着	晴天。朝六ツ半頃野根浦を出立。我等、柴山、青木、稻生同所より測初め佐喜浜浦迄測る。止宿本陣井筒屋宇助、脇宿井筒屋辰三郎、此夜晴天測量。同村庄屋寺田六郎右衛門、同体雄五郎。

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
4	文化5年4月22日	晴天	5月17日	入来 佐喜浜 尾崎 清水 椎名 (中飯) 三津	三津	一今六時過出立測量如 (始) 中飯 椎名 泊り夕七時過着 三津浜浦 百姓孫之亟 別宿 皆円寺	晴曇。朝六ツ半佐喜浜浦出立し坂部、柴山、下河辺、青木、文助、善八同村下より初め同浦枝郷入木村、尾崎村を歴て津呂浦の内椎名村字清水又椎名村を過ぎ、津呂浦の内三津浦まで測る。我等、秀蔵地図並日記を清書に先へ行き三津浦止宿。本陣真言宗皆円寺、脇宿礼之丞、此夜曇少晴測量す。
5	文化5年4月23日	曇。夜有	5月18日	① 三津 高岡 大師堂 ② 大師堂 津呂 (中飯) 室津	室津	一今六時過出立測量始 中飯 津呂浦 真言 西光寺 伊 津寺 泊り室津浦昼九時頃着 ○東寺四国二十四番本尊こくうぞう女人結界 真言宗 室戸山発見崎寺(略) ○此室津浦にて硯石を製す。即調。硯石出所は当所より五十丁計り城下の方海中沖元浦と言所より出る由至て堅し。 ○同所に四国第二十五番津寺。宝珠山真言宗津照寺(略) ○第廿六番西寺 龍頭山光明院金剛頂寺元浦之内	朝小晴無程く曇又小雨。六ツ半頃三津浦出立す。手分けし我等、下河辺、青木、稻生津呂浦の三津浦より初め、津呂浦の高岡村、夫より室戸山明星院最御崎寺の大師堂迄測る。坂部、柴山、文助大師堂より測り、津呂浦を過て室津浦迄測る。止宿本陣真言宗新義宝珠山津照寺〔四国二十五番札所即東寺の末寺〕脇宿平左衛門。〔室戸山明星院最御崎寺は此国では東寺と言い往古は津呂を東寺村共云いしよし。今は津呂の東寺という。国印百二十石四国二十四番札所。土洲一国の真言宗は悉く新義のよし、古義は高知城下に一寺也と云う。〕
6	文化5年4月24日	晴天。有	5月19日	① 四十寺山 ② 浮津 元 行当崎 吉良川 (中飯) 羽根	羽根	今六時過出立測量始。中飯吉良川浦幸や幸七宅。泊り羽根浦昼八時前着。	未明晴六ツ半頃より曇る。室津浦〔五六百積の湊なり。〕出立。坂部、柴山、青木、稻生、文助、善八同村より初め、浮津浦元村〔此村に西寺あり。四国二十六番の札所にて竜頭山金剛頂寺は国印百石東寺に対する西寺という。通称なれ共寺格少し劣りて西寺より東山へ昇をするよし。〕元浦の岬を行当崎と云う〔即ち元浦の内行当村あり。〕吉良川浦を歴て羽根浦迄測る。我等、下河辺、佐助東寺続の山〔四十寺山か〕へ登て山々を測る。濛気多くして遠山遠島不見。測量手は八ツ後我等下川辺はセツ頃に羽根浦着、止宿〔代増屋忠治右衛門、同四郎右衛門〕。此夜晴て測量。

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
7	文化5年4月25日	晴天	5月20日	① 羽根尾僧加領郷（小休） 奈半利（中食） 田野 ② 先へ移動	田野	一今六時過宿出立羽根浦より測量始中食奈半利浦持出。泊り田野浦八時過着。 ○今日道筋泊	朝より晴天。我等、柴山、青木、稲生、文助六ツ半頃羽根浦を出立し、同所より初め同村枝郷尾僧村、奈半利浦枝郷加領郷本浦、人家は入込みて不見。田野浦へ八ツ後着、止宿〔本岡徳左衛門、脇岡又右衛門〕・坂部、下河辺は地図を認め先に宿へ越す。此夜晴天測量。〔二十三日、二十四日、二十五日合三日。〕津呂浦大庄屋多田実右衛門、同所年寄又右衛門、室津浦庄屋今西九郎右衛門、同所年寄庄左衛門、浮津浦庄屋野町勝八、同体市郎右衛門、元浦庄屋奥宮直作、吉良川浦大庄屋田中貞之丞、奈半利浦庄屋高原琢右衛門、同年寄喜右衛門、田野村庄屋佐治右衛門、同浦庄屋勝左衛門、奈半利村庄屋土居新七、各村前後の案内。
8	文化5年4月26日	天。夜有	5月21日	① 唐浜下山西ノ浜（中休） 安芸	安芸	一今六時過出立測量始。中休下山浦門西浜持出し。泊り安喜郡安喜浦八時頃着。	朝晴曇。六ツ半頃田野浦を出立。我等、柴山、下河辺、青木、稲生、佐助同村下より初め、安田浦唐浜浦、下山村、伊尾喜浦夫より松田島浦を歴て安喜浦下迄測り、八ツ頃に安喜浦着。本陣万歳屋久左衛門、脇宿升屋幸平。下山村庄屋庄助、安喜浦庄屋松本新左衛門、同断須藤長兵衛案内。
9	文化5年4月27日		5月22日	① 和食手結（中食） ② 夜須岸浦 赤岡	赤岡	一今六時過出立船にて三里程にて香我美郡手結浦江着。此処より測量始。中食手結湊内。真言長樂寺泊り昼九時頃着 四人 長木屋磯右衛門 赤岡浦 伊 同 五左衛門	朝より晴天。六ツ半頃安喜浦出立し手分。我等、下河辺、青木、稲生〔善八病気代藤吉〕同村止宿下より初め安喜郡和食浦を歴て香美郡手結浦迄測る。坂部、柴山、文助、佐助は手結浦より初め夜須村より岸本浦を歴て赤岡浦迄測る。後手は八ツ頃先手は九ツ頃に着。赤潤浦本陣長木屋又左衛門、脇宿長木屋次惣右衛門、此夜晴測量。手結浦庄屋左近右衛門、年寄万歳、夜須村庄屋仲平、岸本浦庄屋長尾喜代次案内。赤岡村大庄屋浜五郎平同断。 ①伊能・下河辺・青木・稲生 ②坂部・柴山・文助・佐助

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
10	文化5年4月28日	晴天	5月23日	① 吉原 物部川越 久枝 前浜 ② 立田 後免 常通寺島 布師田 江ノ口 種崎 ③ 北山越え	① 正興寺 ② 種崎	○手前にて此処より坂部・柴山・植田・相別れ、直に高知へ行。 一今六時過出立。夫より直に小休野市村物部川越へ立田後面町小休治兵衛。東長岡郡西野地村、常通寺嶋村、西土佐郡布師田村。中食弁当奥田常右衛門。江野口村を過て昼九時過駕籠にて行。土佐郡高知城下町種根崎村立見屋伝右衛門方。	朝より晴天。大手分する。坂部、柴山、文助、佐助六ツ半頃出立し無測量にて直に高知の城下に至り、当土佐国の横切（土洲長岡郡・予洲宇摩郡）境笹ヶ峯迄測らんとす。我等、下河辺、稲生、藤吉、赤岡浦より吉原村久枝村を歴て前浜村迫測る。止宿本陣南光山真言宗正興寺、脇宿浜田幸右衛門。此夜郡方下役馬場三八郷方横目杉本秀平高知城下より来る。此夜大曇別手高知泊。野市村庄屋楠瀬六郎右衛門、吉原村年寄宇平、佐古郷大庄屋島崎森之丞、前ノ浜村庄屋武作、同年寄嘉右衛門。
11	文化5年4月29日	過より雨	5月24日	雨天見合	種崎	一今朝出立可致処雨天に付見合。当所逗留。 ○坂部・柴山・植田・左助廿八日朝赤岡より直に駕籠にて五里程高知城下江着。	朝大曇天。六ツ半後前浜村出立。我等、下河辺、青木、稲生、藤吉前浜村下より初め〔無程小雨〕・長岡郡浜改田村十市村、仁井田村を歴て種崎浦へ九ツ半頃に着。止宿本陣鍋屋仁作、脇早儀十左衛門。上田村庄屋中内弁之丞、同村年寄門田甚左衛門、下島村庄屋島村克治郎、同年寄重蔵、立田村庄屋岡田弥三之丞、同村番頭新助、物部村庄屋恵左衛門、年寄四郎右衛門、同助作、里改田村庄屋宇賀六郎右衛門、浜改田村庄屋林八、久枝村庄屋茂右衛門、仁井田村庄屋浜口喜太右衛門、種崎浦庄屋岩松勇蔵此日朝小雨に付、別手高知逗留。

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
12	文化5年5月朔日	曇	(15 : 5月25日)	種崎 布師田 (中 食) 比江	比江	<p>一今六時過出宅。城下種根崎町立見屋門前より測量始。中食は長岡郡布師田村庄屋奥田常右衛門。泊り八時過着。比江村浪人江島礼兵衛宅</p> <p>一今日伊能・下河辺・青木・稻生・高知着之由。長岡郡国府村比江村入組此所田地の中之方二坪程に囲ひ、紀貫之の旧跡石銘あり。昔紀貫之此国の領主に補せられ住給ひし館跡といふ。天明年中国主より建給ひし石碑也。</p>	<p>朝曇。六ツ半頃種崎浦出立〔測者同前以下略之〕。同所下より測初め浦戸向にて浦戸の渡を測り又仁井田村へ出て五台山村〔五台山竹林寺金色教院は国印百石〕、吸江村〔是も五台山吸江寺あり濟家宗国印百石。臨海楼ありて風景好く呑海亭あり。国主遊覧の所なり〕・介良村の枝郷桂島〔即人家並〕迄測る。それより乗船し高知城下種崎町へ着、止宿〔種崎町広小路辰巳屋伊藤伝右衛門〕・同所蓮池町庄屋左吉、境町庄屋悦介、水通町庄屋文治、種崎町庄屋助九郎、浦戸町庄屋助市、細工町庄屋貞蔵、農人町庄屋常右衛門出る。浦戸町庄屋弘田喜左衛門出る。坂部、柴山、文助、左助は高知種崎町より測初め新市町、蓮池町、山田町にて市中は終る。夫より江ノロ村、筋江(葡野)村、一宮村、布師田村にて郡交、長岡郡中島村当(常)通寺島村、国分村、比江村迄測る。止宿比江村百姓江島礼平。三里十二町三十三間。</p>
13	文化5年5月2日	五半時雨	5月26日	南国市亀岩 (中食) 吹方(穴内)	穴内	<p>一今朝雨天に付見合。五半時頃より出立測量始。中飯亀岩村百姓常助方。泊り吹方着。穴内村百姓</p>	<p>朝雨見合午前小雨。高知逗留し測る。予此日より持病疾にて引籠る。下河辺、青木、稻生、善八種崎町止宿。前坂部の残杭より初め、逆に昨日測終介良村字桂島の川向土佐郡下地村地迄測り引返し、下地村より川を渡り潮江村の内字西迄迄測り、セツ頃帰宿す。此日度々小雨。別手比江村より測初め〔領石村植野村〕入会穴崎村、亀岩村夫より権若峠を過ぎ上ヶ倉郷穴内村迄測る。止宿穴内村百姓権蔵。二里二十二町五十一間。</p>

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
14	文化5年5月3日	晴天夕よ	5月27日	穴内 権蔵坂 国見峠（中 食） 本山	本山	一今六時過穴内村出立。権蔵坂通り測量。中食国見峠。泊り本山郷本山村。惣家数百四十八軒。夕七半時過より、酒造長瀬順次宅。	朝晴天。予病気。六ツ半頃下河辺、青木、稻生、善八昨日の測終土佐郡潮江村字西孕より初め吾川郡横浜村、長浜村、御豊瀬村又長浜村と浦戸界迄測り八ツ半後に帰宿。此日伊藤鉄之丞、高村右馬之助（二人共郷土出役）達て願に付病中対談す。広井小左衛門出る。御豊瀬村庄屋団右衛門、横浜村庄屋治助五台山村庄屋寿平、介良村庄屋溝測茂左衛門、下知村庄屋小松平蔵、長浜村庄屋彦右衛門、潮江村庄屋前田嘉右衛門。曆局より書状着。〔是造付添案内佐喜浜浦庄屋寺田六郎右衛門当城下より帰る。〕別手穴内村より測初め国見峠を越え本山郷古田村、吉延村、大石村、本山村迄測る。止宿本山村永瀬順治。三里三町十二間。

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
15	文化5年5月4日	晴	天。昼i 5月28日 滞留			<p>一今日雨天に付長岡郡本山郷本山村止宿逗留。</p> <p>○土佐国高知城下町より北の方へ山を越し、伊予国界迄凡十六里測量可致ため、四月廿八日朝香美郡赤岡浦より坂部・柴山・内弟子植田・文助・縄引彦助上下六人伊能氏に相別れ、駕籠にて凡道程五里にて廿八日八時頃高知城下町へ着。翌日雨天にて城下に逗留五月朔日朝六時過出立止宿前より測量。三里程にて比江村江着。翌二日朝五時過出立。測量始三里程にて権蔵坂とて上り下り二十余の坂を越へて夕七半時過穴内村江着。翌三日朝六時過出立。測量国見峠を越へ凡上り下り三里計り也。此間人家一軒もなし。細道にて大木生茂り白昼やみのことき山中を通りて漸々夕七半時頃本山郷本山村江着止宿。</p> <p>○此本山より高知迄凡九里計りにて、権蔵坂国見峠とて大難所二ヶ所有りて都て山中計りの細道なり。是より行先は立川笹の峯へ出それより伊与国へ出川の江辺へ出る道筋なり。此拾ヶ年程以来より領主江戸参勤帰国とも、南海の風難を嫌ひ此山道を通り伊与国へ出讃岐丸亀より乗船にて、幡州室(津)へ罷越候よし也。</p> <p>○此本山よりは、四方都て高山続近辺二、三里か間に山谷に少々の村あるのみにて、城下までは右之大難所を越し八、九里も不行しては人家更になし。誠に幽谷の住居也。されとも此本山は当家家老住居して陣</p>	<p>朝より雨。四ツ後より止む。此夜曇。五ツ半頃より晴る。測量。別手雨天本山村逗留す。</p>

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
16	文化5年5月5日	五半時曇	5月29日	下津野 木能津 上関 下関 葛原 (小休) 川口 (中食) 立川番所	立川番所	一今六時過本山村出立吉野川岸辺より測量始下津野村・木能津村・上関村・下関村・葛原村にて小休支度。高橋源左衛門宅。川口村にて仕廻。此所に休息。中飯調。此所より駕籠に而龍(立)川番所に着。此所預り当所住居にて元山頼右衛門と言。番所余程広し。領主参勤他国之節者此所泊りに成る由。此所より三丁程先手又一軒の番所あり。預り川井惣左衛門と言。此龍川番所より伊与国界笹ヶ峯迄壺里余。五日泊り即元山頼右衛門預り番所也。昼八半時過着	朝より晴天。祝儀に出る者郡方下役馬場三八、勘定役松島忠藏、賄方加役樋口喜助、三木義四郎、浦方横目岡本忠治郎、普請方下役古井愛藏、郷方横目杉本秀平、浦方下役宮崎竹助、普請方下役広井小左衛門、浦方横目弘瀬亀八、休泊用達松村七之進外に種崎町庄屋助九郎、浦戸町庄屋助市、細工町庄屋貞藏、新市町庄屋助三郎、農人町庄屋常右衛門、案内水通町庄屋文治、蓮池町庄屋左吉、境町庄屋悦助各端午祝儀に出る。予持病不全快故に悉くは不為対面。別手本山村より測初め、吉野川に従ひ下津野村、木能津村、上関村、下関村、葛原村、川口村迄測り、夫より無測量にて立川村へ越止宿。立川村番所預り人大庄屋元山頼右衛門。二里十八町十二間。
17	文化5年5月6日	晴天	5月30日	下名番所 笹ヶ峰 豫洲馬立村界 打止	立川番所	一今六時過出立。当上名番所前より測量始夫より壺丁余にて下名番所を通抜山道を歴て笹ヶ峯土州長岡郡立川村伊予国宇摩郡馬立村界に打止。夫より引帰し又番所前より逆に測量始。立川村の内字千本と言所まで打終る。泊り元山頼右衛門宅	朝晴天。江戸暦局へ当所幸便に書状一封頼む。当国主(山内十代豊策)より我等へ土佐鯉節百・小杉原三十帖、下役四人へ土佐鯉節八十宛。小杉原二十帖、内弟子秀藏・佐右衛門・文助三人へ土佐鯉節五十宛、侍悼取三人へ金百疋(疋は二十五文乱草履取藤吉銀二両、下役中四人草履取も同断銀二両宛御贈恵あり。御使町奉行下役楠目虎之丞麻上下にて来る。此夜晴天測量す。別手立川村止宿前より初め笹ヶ峯まで測る。此所〔土洲長岡郡予洲宇摩郡〕境なり。予洲より出迎者松平壺岐守領分(西条三万石)大庄屋添役今村源太、矢野淳藏、上柏村(伊予三島市)庄屋文太、馬立村(新宮村)組頭勇助、長治郎。一里二十五町四十間半。右ノ者共に笹ヶ峯より川の江蓮村順里数承候所、国境笹ヶ峯一里半、馬立村今治領一里、新宮村(松山御預御料今治領)二里、半田村(川の江市)今治領一里半、川の江(松山御預御料所)通斗六里と云い伝。三十六町一里にして凡七里斗もあらんといえり。それより立川村へ戻る。

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
18	文化5年5月7日	晴天	5月31日	千本川口 (中食) 元山 (本山)	元山 (長瀬)	一今六時過出立。六日打止。千本より測量始中食川口村庄屋。此所に而打終る。支度いたし駕籠にて昼後八時頃より又元山村長瀬順次方江罷帰る。止宿。一今日に而高知より笹ヶ峯まで凡十一里計り測量済。	朝晴天。六ツ半頃高知城下を出立。乗船して三日測終の長浜村と浦戸界より測初め浦戸長浜村、東諸木村を歴て甲殿村下迄測る。止宿吾川郡甲殿村百姓庄平、脇孫助八ッ頃着。我等全快出勤す。東諸木村庄屋代堀内長平、甲殿村庄屋熊蔵出る。此日普請方下役寺田惣作入替るよし。此日浦方横目岡本鉄作初て出役。是より国界造付添の由、高村右馬丞付添測量を学ぶ。此夜曇天不測ず。別手立川村止宿前より測初め、逆に川口村迄測り、一昨日五日の止杭へ繋ぎ街道測量終る。それより本山村へ越て泊る。二里二十五町三十二間半。
19	文化5年5月8日	雨	6月1日	元山 (本山) 穴内 (中食) 種崎	種崎	一今六時過より元山出立。尤駕籠也。中食穴内村百姓泊り高知城下種崎町立見や伝左衛門方元山より九里余也。夕七時過着。一当六日領主士州候より使者旅宿へ入来。町方下役楠目勝之丞を以	朝大曇天微雨。六ツ半頃甲殿村出立。同村下海辺より初め仁野村迄測る。大雨並風測量難成く新居浦にて中食し直に高岡郡宇佐浦へ行く〔又宇佐郷浦という〕・止宿本陣福島屋六之丞、脇宿庄屋岩井善治郎。別手未明本山村出立国見峠、権若峠を越え夕方高知城下へ帰着、終より大雨大難儀なり。
20	文化5年5月9日	昼前よ	6月2日	滞留	種崎	一今日城下町滞留。米一升到付七拾壹文残。一江戸表江之書状今六日に当所郡方下役下河辺相渡し候由。尤領主使に差達可申旨也。○当国よりは毎月十二日頃と廿七・八日頃と壹ヶ月両度つつ定便り有之由。○札所三十二。五台山文殊〔寺領百石参詣〕国守普請。止宿前より小船にて亭主伝右衛門同道凡壹り計り川を乗。即五台山の前へ着。夫より寺内通り七・八丁山を下り、吸江寺へ出てる。比寺旧地也。寺領百石。ムソウ(夢窓)国師の草創吸江庵の額は尊氏将軍之筆と言。高の師直の植し松有大木也。三階作りにて山へ作り懸けして本堂也。三階の上の間は裏の方は土間江下る也。先代国守の連枝此寺に住職有りし由也。	朝晴午前より曇り。六ツ半頃宇佐浦止宿下より初め、逆に海岸を高岡郡新井浦を測り、夫より昨日測甲殿浦吾川郡仁野村境迄測る。〔仁野村新居浦〕界に仁淀川あり、旧名賢殿川、夫より宇佐浦へ立帰り、同村下より〔福島浦清の浜〕入会の入口迄測り井尻浦の渡幅を測る。九ツ半頃に帰宿す。仁野村庄屋武田弁丞、新居浦郷庄屋細田源右衛門、福島浦本田宗平。別手高知逗留。

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
21	文化5年5月10日	夕より曇	6月3日	種崎 広岡 (中食) 宇佐	宇佐	<p>一今六時過土佐郡高知城下種崎町出立。中飯吾川郡広(弘)岡中野村尤駕籠也。百姓深瀬伝右衛門。泊り高岡郡宇佐浦。昼九半頃着。</p> <p>四人 福島や六之丞 伊 津名や治右衛門</p> <p>一当所江伊能氏一昨八日着に而今日滞留に付、此所落合四月廿八日相別れ、十二日目にて出合。</p>	<p>曇天。朝六ツ半〔即宇佐浦逗留測〕井尻浦より初め、同浦枝浦竜浦竜村を測り、夫より浦の内村字ツッラ崎迄測り八ツ後に帰宿。此日坂部、柴山、文助、佐助当浦へ帰着。此日井尻浦庄屋嘉蔵、竜村庄屋五右衛門、山改役岡本宗内、高石恵内付添う。高岡村庄屋下村長左衛門出る。手分けし山手測へ付添う。賄下役土居民平、熊谷為蔵、賄役別府半七、勘定役等高知へ帰る。伊藤鉄之丞来る。此(以下欠)</p>
22	文化5年5月11日	曇。夜有	6月4日	宇佐 井の尻浦 (井 出見 尻)	宇佐	<p>一今五時頃より宇佐浦出立。井の尻浦より測量始。同所入江相廻船にて罷越。</p> <p>泊り 浦の内村出見在家庄や十九郎</p>	<p>昨夜小雨朝大曇。見合せ五ツ頃宇佐浦〔又宇佐郷浦と云う〕を出立す。手分けし我等、下河辺、青木、稲生、善八福島浦、清浜浦入会より初め、浦ノ内村字灰方か深浦、塩間、出見迄測る。坂部、柴山、文助、佐助井尻村より初め、同村字宇津賀、浦内村〔字鍋烏頭家四軒〕〔字堂浦家二軒〕〔字入戸家二軒〕〔字白鷺家二軒〕〔字大崎岬〕〔字浦ハエ人家なし〕〔字長崎同〕〔字大鹿同〕迄測る。我等手は八ツ頃、坂部手は八ツ半後浦之内出見に着。本陣真言宗春日山千光寺、脇清助。此日奥浦東分村庄屋儀三郎、同西分村庄屋島村平内出る。</p>
23	文化5年5月12日	晴天夜曇	6月5日	出見 浦の内 奥浦	東分	<p>一今六時過出見出立。船に而浦の内村へ相渡測量始。入江相廻り中字字大添にて泊り夕八時過着。奥浦東分横浪。</p>	<p>朝少晴。此日手分けし、我等、下河辺、青木、稲生、善八六ツ半浦内村出見出立。〔坂部組同断〕・同所より初め同村〔字三ツ松家二軒〕〔字立目家二十六軒〕〔字摺木家十六軒〕を歴て奥浦東分村迄測る。夫より西分村字中ノ浦造仕越測る。坂部、柴山、文助、佐助浦内村字大鹿より初め、字白崎字〔今川内家十六軒〕字小島崎字〔福良家十六軒。此所に池ノ浦へ越坂あり。凡十二町〕〔字大添家四軒〕字長崎〔字須ノ浦家十二軒〕迄測る。両手共八ツ頃着。止宿本陣百姓直蔵、脇忠治右衛門。</p>

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
24	文化5年5月13日	薄曇	6月6日	中の浦 鳴無神社（中食） 井の尻	井の尻	<p>一今六時過奥浦東分横浪出立船にて中の浦迄相越、測量始。中食鳴無明神前別当源光寺。泊り船にて二里程にて井の尻浦八時過着。百姓升方や木曾平。</p> <p>一今日手分には、伊能、下河辺、青木、秀八持切江罷越。坂部、柴山、植田三人相別測量。</p> <p>○高岡郡奥浦東分の内入江に鳴無明神社内別当源光寺神上土州一宮高加茂明神同鉢之由。</p>	<p>朝曇天。六ツ半頃奥浦東分村出立。手分し坂部、柴山、文助、善八昨日手分の測終奥浦西分村字中浦より初め、須ノ浦迄測り、昨日ノ測へ合す。夫より井尻浦へ越て泊。宿百姓喜惣平。我等、下河辺、青木、稻生、佐助奥浦東分村入口〔昨日印杭を残置〕より初め、西分村を測る。神田村を歴て押岡村地を歴、又神田村地先〔此所へ印杭を残す〕多野郷村より須崎浦造横切をなす。止宿須崎郷浦大庄屋川測嘉右衛門、脇宿富岡屋弥惣右衛門。但八ツ頃着。湊深十間。</p>
25	文化5年5月14日	晴天暑強	6月7日	龍崎（竜岬） ツツラ浦（ツヅラ崎） 福良（中食） 能見浦久通	久通	<p>一今六時頃井の尻浦出立。船乗龍崎江相廻りツツラ浦の浜より打始。中食福良の山瀬、泊り能見浦枝郷久通惣家数三十軒。夕七時過着百姓弥三郎宅</p> <p>○今明ケ六時過井の尻浦より船に乗り同所龍崎にて、甚た浪強き所を乗通り候に付、船は五・六尺つつ土手上り船中ゆれ候こと高計りなし。依て甚た心持悪しく吐食等いたし、漸く壺里余にして津々ら崎といへる岸に着船するといへとも、海岸通り難く山へ上る事凡三丁計り甚た急なり。夫より又僅に四、五十間下り海岸へ出る道あり。此辺人跡絶へ其所に住馴れぬる木こりさへも不通所なり。誠に扉風を建たることく木の根落つるなどを伝へ、漸々にして海岸へ下りたり。夫より二、三丁にて又海岸通り難く、又山へ上る。これより二十丁計にて甚急なり。それより此日の測量二里二十余の道なれとも大難所にて、別て此日此夏に成り始ての暑さにてたへ難く、誠に此日の難義一生界不可忘。昼八時過測量仕廻。夫より海上波立候に付又山道を壺里半計り歩行て、能見浦枝郷久通といへる在所へ至り、百姓弥三郎方に泊り候事。此日の難義後日不可忘ため荒増を、記し置而已。</p>	<p>朝晴。六ツ半頃須崎浦出立。昨日神田村地先印杭より初め、多野郷村、同村串野浦を測る。夫より大谷村枝勢井を歴て野見村人家下より大谷村堤迄測り、乗船して須崎浦〔又須崎郷浦と云う〕へ帰着。別手坂部、柴山、文助、善八井ノ尻浦より乗船し、浦内村字ツツラ崎より初め、外海通り池ノ浦を過ぎ同村字竹ノ内迄測る。止宿〔野見浦枝浦久通浦〕百姓弥三郎。</p>

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
26	文化5年5月15日	曇暑気	6月8日	久通	久通	一今六時過久通海岸より測量始。中食船越し山上、夕八時半頃仕廻泊り。久通浦江罷帰る。	朝晴曇。六ツ半頃須崎浦出立〔此朝伊藤鉄之丞帰る〕・乗船直に大谷村昨日測留の堤へ至り測り初め、夫より野見浦の向地を測る。大谷村持の中ノ島戸島半周宛測る。〔又手分して我等、青木乗船して中ノ島戸島半面を概測し、神島を見取測す。〕下河辺、稲生野見浦の地先大海辺の三の山を測り、八ツ後野見浦へ着。止宿本陣竹野屋亀之丞、脇宿〔庄屋代森三平〕・別手〔人数同前〕久通浦止宿下より初め、逆に奥浦西分村東分村を測り、昨日の打止め字竹ノ内迄測り久通浦へ立戻り泊。
27	文化5年5月16日	晴天	6月9日	久通 能見 洲崎 (須崎)	須崎	今六時過久通浦より測量始。大難所山の瀬を越へ、字鯖ヶ浦にて手合双方出合九ツ時頃也。中飯。夫より船にて能見入口を過て洲 (須) 崎浦へ九時過着。 富山や弥三右衛門 本陣庄や川口嘉右衛門	朝晴曇。六ツ半頃野見浦出立。乗船して昨日測留より外海辺へ長縄引下し、乗船して測。午前別手の久通浦より測量しノゾキ岬にて出会。別手 (は) 久通浦止宿下より初め順に山上相測り、ノゾキ岬にて逆測の別手と会測し、共に乗船九ツ前後に須崎浦着。
28	文化5年5月17日	曇天	6月10日	逗留	須崎	一今日御用取調に付当所逗留。	朝曇。四ツ頃晴天同所逗留地図〔片岡文三郎という者曆学を問う〕・夜は曇天久礼浦庄屋大谷鉄之丞出る。
29	文化5年5月18日	大雨。	6月11日	安和 鎌田 (中食) 久礼	久礼	一今六時過洲崎浦出立、手より安和浦より測量始。中食鎌田村。 泊り 久礼浦手津や弥三右衛門	朝曇。六ツ半頃須崎郷浦出立。手分けし我等、下河辺、青木、稲生、佐介同浦下より初〔小雨〕・安和浦人家下より先字田浦迄測り中食。坂部、柴山、文助〔善八〕字田ノ浦測初め、久礼浦の内大野村〔中食〕の先字鎌田迄測る。大雨になり測残して九ツ半頃久礼浦着。後手我等組は安和浦より山道〔即本道〕を越て九ツ後久礼浦着。止宿庄屋治三郎、脇宿百姓義三右衛門。半山郷大庄屋片岡弥四郎、下分村庄屋山崎順平、土崎町庄屋中平半四郎出る。

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
30	文化5年5月19日	り小雨	6月12日	鎌田 大津崎	久礼	<p>一今日久礼浦逗留。 一今九時過より出立。測量鎌田より始。大津崎迄七時頃当所へ帰宿。 △当国城下高知町数二十五家数四千五百三拾三軒。武士町男女共五十万人余 種崎町 京町 浦戸町 通町 南奉公人町 築屋町 北奉公人町 通町 水通町 蓮池町 山田町 新市町 紺屋町 細工町 材木町 農人町 菜園場町 本町 廿代町 朝倉町 弘岡町 堺町 懸河町 要法寺町 唐人町</p>	<p>朝大曇。村役人汐満波高く測量難成というに付、見合す。無程雨降り出す。又止み午後汐干、測量成というによって同所逗留測る。坂部、下河辺兩人は地図に残し秀蔵は病氣。我等、柴山、青木、文助、佐助午食し乗船。昨日先手測残しの字鎌田より初め、久礼浦の内字小草迄測る。雨不絶降りセツ前に帰宿。夜亦雨。</p>
31	文化5年5月20日	四ッ時遙	6月13日	大津崎	上の加江	<p>一今昼九時前より高岡郡久礼浦出立大津崎測量夕七時頃泊り着。 上の加江浦 若松や幸吉 本陣大谷良助 ○今日測量所海岸大岩石にて浪たかく、船にて測量いたし候処大津崎浪高く、既に船くつかへらんとするといへとも、運強くして無事に帰宿せし事高運といふべし。</p>	<p>朝雨止て又曇る。四ツ半頃久礼浦出立。坂部、下河辺地図、秀燕病氣三人共上ノ加江浦の泊へ先行。我等、柴山、青木、文助、善八乗船し久礼浦の内字小草より初め、上加江浦字七浦の内本山迄測り、セツ半頃に上加江浦へ着。本陣庄屋大谷良助、脇宿若松屋幸吉。</p>
32	文化5年5月21日	晴天	6月14日	小矢井賀 大矢井賀（中食） 志和浦	志和	<p>一今六時過上の加江浦出立。先手者（志）和浦枝郷小矢井賀大矢井賀中食。 泊り志和浦 禅宗薬師寺 夕八半時過着 不残一所</p>	<p>朝晴。六ツ半頃上加江浦出立し手分す。先手坂部、柴山、文助、善八上加江浦字加江崎より初め、志和浦枝郷小矢井賀、同大矢井賀を歴て志和本浦迄測る。後手我等、下河辺、青木、佐助上加江浦下より逆測し、昨日測終の同村字七浦の本山に至りて合測。立帰り上加江浦下より順測し、同村枝郷押岡村〔家十五軒あり〕を歴て加江崎にて先手の残抗へ合す。後手は九ツ半頃、先手は八ッ頃に志和浦へ着。止宿本陣臨濟宗瑠璃山薬師寺〔上下十六人一宿〕。志和浦庄屋古谷七助案内。此日同国幡多郡の郡方下役秋尾九郎内、普請方下役生原弥五右衛門、郷方横目今橋恵助、窪田門八、山改役池田利作、坂本芳平、幡多郡測量御用中付添候趣見習に出る。</p>

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
33	文化5年5月22日	晴天	6月15日	冠崎(冠岬) 杓子浜(中食)	与津浦(左衛門)	<p>一今六時志和浦出立。冠崎より測量始与津浦杓子浜至る。此所中食。 泊りと津浦 庄や渡辺俊蔵宅 夕七時過着 本陣一所。 一郡下役秋尾九郎内 普請方下役生原孫右衛門 山改役坂本芳平 山改役 池田利作 郷方横目窪田門八 今橋専助 右之者共廿一日志和浦泊り江罷出る。但幡多郡役筋之者共也。 普請方下役森下(本) 喜之助</p>	<p>朝晴曇。手分し我等、下河辺、青木、稻生、佐助志和浦より初め、同村の内小弦津大弦津を歴て冠崎前迄測る。坂部、柴山、文助冠崎前より初め、与津村の坂越迄測り後手測量済。乗船して与津浦へ行んとす。先手尺取らざるによって坂越より助合山通り与津浦湊口迄測る。又与津浦止宿迄測る。後手は八ツ後、先手はセツ後与津浦着。止宿庄屋渡辺俊蔵〔上下十六人一宿〕。幡多郡普請方下役森本喜之助初て出る。同郡大庄屋森佐十郎、同断伊与木郷の大庄屋間崎源左衛門出る。</p>
34	文化5年5月23日	九時頃よ	6月16日	小室浜 清水谷	鈴	<p>一今六時与津浦出立。小室浜を過て本脇より測量始。清水谷に終る。大雨に付半にて仕廻帰る。 泊り幡多郡鈴浦 百姓義助 本陣林左衛門</p>	<p>朝曇晴。六ツ半前与津浦出立。手分し後手我等、下河辺、青木、稻生、佐助同所止宿前より初め、同浦岬ノ山より同所小室浜入口迄測。初は小雨なりしが段々風雨強なり。海辺休小屋にて中食難成く昨夜の止宿へ立帰て中食し、雨中又止宿前より初め、小室浜の先手残し杭へ合測し〔此浜の上に与津村あり〕、それより乗船し鈴浦へ越す。先手朝六ツ頃坂部、柴山、文助、善八与津浦小室浦より初め、同浦の字小島戸、大島戸を過て同浦水谷迄測り中食。大雨にて測留め鈴浦へ八ツ頃に着、後手はセツ前に着。止宿幡多郡鈴浦庄屋林左衛門、別宿鈴村庄屋清助。</p>
35	文化5年5月24日	小雨終日	6月17日	逗留	鈴	<p>一今日雨天に付鈴浦逗留。此浦人家漸四十に不足。</p>	<p>雨天。逗留波浪高し。具同村大庄屋小野庄之丞出る。此日村々差添村役人郡替に付帰る。〔是造浦々付添案内の赤浜(岡力)浦大庄屋浜五郎平も此浦より帰る。〕</p>

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
36	文化5年5月25日	夜有測	6月18日	水谷 (?)	佐賀	<p>一今朝天気見合。五時頃より鈴浦出立船にて水谷迄戻り測量始。夫より鈴浦先手残し杭迄繋ぎ此所に者中食。又船には幡多郡佐賀浦江八時過着。</p> <p>○郡界〔高岡郡鈴浦幡多郡佐賀浦〕風谷鼻と言也。佐賀浦止宿。</p> <p>一郡下役 横目北岡十右衛門 普請方下役 広井小左衛門 奥宮弁蔵</p> <p>右郡代りに付此所より罷帰る。高知迄陸三日路之由。</p>	<p>前夜より雨五ツ後に止。五ツ半頃より鈴浦出立し手分。先手我等、下河辺、青木、稻生、佐助鈴浦〔鈴村もあり〕下より初め〔熊野浦というあり家二軒なり。古は一浦にて家数もありしよし。今は伊与木郷の内になり浦もなしという〕、佐賀浦迄測りそれより鹿島一周を測る。後手は坂部、柴山、文助、善八乗船して二十三日測留の与津浦字水谷より測初め、風谷を歴て此所〔高岡郡与津浦幡多郡鈴浦〕界より鈴浦下迄測り、先手の初測へ合す。両手共佐賀浦着。本陣大庄屋森佐十郎、別宿庄屋克治。此日伊田、上川口、浮津、入野四ヶ浦庄屋安光慶八、伊田、白浜、有井川、上川口四ヶ村庄屋小野半左衛門出る。此夜宵晴て測量無程曇る。此日郡方下役北岡十右衛門、普請方役広井小左衛門、同奥宮弁蔵、郷方横目根来琢八、同植田多郎平高知へ引取る。</p>

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
37	文化5年5月26日	村雲。有	6月19日	白浜 上川口	上川口	<p>一今六時佐賀浦出立。船にて幡多郡伊田村内白浜へ着。此所より測量始め。中食松山寺。泊り上川口浦九時過着。四人柑子や治七宅。 ○松山寺に紀貫之真筆月の字額あり。写別帳に留。</p>	<p>朝曇天。六ツ半頃佐賀浦出立手分す。先手坂部、柴山、文助、善八伊田浦〔枝郷〕、白浜〔家十一軒あり〕より初め、伊田浦〔同村あり〕、有井川村〔地先なり家は三四町奥あり〕、上川口浦まで測る。後手我等、下河辺、青木、稲生、佐助佐賀浦下より初め、白浜迄測り先手の残杭へ合し、それより山越をなし伊田浦の松山寺へ立寄り中食をなし、此寺伝来の紀貫之の月ノ字の額を一覧す。日野前大納言資枝卿の添玉える歌あり。 世々遠くあるかなきかの影とめて つきをかたみの水くきのあと 書添の書に紀貫之朝臣は土佐の任はてて都に帰りのぼらせ給うころ海より月の出るを見て 都にてやまのはに見し月なれど 浪より出て浪にこそいれ といえる歌等を証とせり。 それより乗船して上川口浦へ九ツ後に着。止宿本陣石見屋多三郎、脇宿椀屋治七。着後伊与木郷大庄屋間崎源左衛門、入野郷大庄屋永野浅六、田野浦〔同村〕庄屋彦進、具同村大庄屋小野庄之丞〔伊田上川口浮津入野〕、四ヶ浦大庄屋安光慶八出る。此日伊予国宇和郡吉田伊達若狭守〔高三万石〕領分河内村（現吉田町）庄屋山下源治郎、同領二及浦（現三瓶町）庄屋笹田仁左衛門当国迄測量御用向見聞に来る。</p>
38	文化5年5月27日	天時々曇	6月20日	入野（中食） 田野浦	田野浦	<p>一今六時出立。手別〔先生、柴山、青木、秀文〕測量。中食入野村。泊り昼時頃着。田野浦村庄や四人庄之亟。 ○此の入野浜砂浜にて山根迄六・七丁平地にして、長廿六丁名産小袖貝出る。尤三月頃ならではなし。</p>	<p>朝曇。天六ツ半頃上川口浦出立。坂部、下河辺、青木三人直に田野浦に至って地図を成・我等、柴山、稲生、文助〔佐助〕上川口浦より初め、枝浮津浦を測り入野村枝郷鞭村、入野村〔上川口浦枝浦〕、入野浦を過ぎ入野郷田野浦村、下田浦枝浦田野浦迄測る。九ツ前田野浦着〔本陣蓬来山和泉寺真言宗仮亭主庄屋喜代平〕、脇宿〔田野郷浦〕庄屋彦之進。セツ後布屋友右衛門〔布村立石村〕、庄屋沖幾之丞出る。下茅浦大庄屋岡村益平来る。前夜より大雨。同所逗留。午後伊与木郷大庄屋間崎源左衛門出る。国境造付添案内のよし。具同村大庄屋庄之丞出る。浦方下役宮崎竹助、幡多郡郡方下役秋尾九郎内見舞に出る。此日終日雨。</p>
39	文化5年5月28日	従未明雨	6月21日	滞留	田野浦	<p>一今日雨天に付田野（浦）滞留。 伊能 眞言 和泉寺</p>	

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
						一今六時過田野浦出立。測量始。中食泊り共下田浦昼八時頃着。四人同居富士屋良平。	朝大曇。見合し五ツ前出立手分す。先手坂部、青木、文助、善八鍋島村の内平野〔家三十軒あり〕より初め下田浦止宿下迄測る。後手我等、柴山、下河辺、稲生、佐助田野浦より初め、出口村、伊屋村〔二ヶ村共に入野郷枝村〕を過て鍋島村枝郷平野迄測り先手の初杭へ合測。それより本道無測量にて下田浦へ行き同所止宿にて中食し、それより同浦川口向〔四万十川という。当国の大河又渡川という。巾二三町〕間崎村枝郷名鹿地ノトウ崎より初め、同村枝郷初崎界より剣山を横切り海に付て山上を測る。名鹿の内字小名鹿迄測る。先手も亦下田浦止宿下より初め、中島小島大島を越え〔下田村持〕間崎村枝郷初崎まで測り、残杭トウ崎にて合測す。両手共八ツ後に下田浦へ着。〔此浦の上に下田村もあり〕止宿〔本陣〕平田屋忠蔵〔脇宿〕庄屋麻田瀬左衛門〔親いわく浦之丞〕・実崎村庄屋忠太右衛門〔当国界造案内〕。布村庄屋沖市左衛門出る。具同村大庄屋小野庄之丞当国界造付添案内の所足病にて相止になる。間崎村庄屋安岡篤七国界造付添に成。間崎源左衛門、実崎村庄屋忠太右衛門は前より国界造案内に極る。此日七ツ頃より雨夜に至る。此下田浦は川湊なり。〔即渡川又四万十川という。〕
40	文化5年5月29日	八時過よ	6月22日	田野浦 下田（中食）	下田		
						一今六時過下田浦出立。船にて布浦字持（米）津へ着。此所より測量始。下茅浦湊口にて終。泊下茅浦八時到着。	朝晴曇。六ツ半頃下田浦出立。手分し先手坂部、柴山、文助、善八布浦字狩津より初め、布浦を過て下茅浦迄測り、それより同浦字鍵掛迄仕越を測る。後手我等、下河辺、青木、稲生、佐助昨日測留間崎村枝郷名鹿字小名鹿より初め、大名鹿〔海辺より八九町上に布浦枝郷に立石村あり。赤水図の布立石なり〕を歴て布浦字狩津迄測り先手の測へ合す。それより乗船セツ頃下茅浦へ着。先手は八ツ頃着。止宿本陣大庄屋岡村益平、脇宿飴屋嘉兵衛。当浦は能湊なり。着後秋尾九郎内、宮崎竹助、浦方横目山改役等出る。国界迄付添の間崎源左衛門、忠太右衛門等日々差添着後日々出。以下略。此日宵曇五ツ頃前より晴測量。
41	文化5年5月30日	〔有測出〕	6月23日	布 下の加江	下の加江		

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
42	文化5年6月朔日	晴天	有 6月24日	下の加江 大岐の浜 以布利(中 食)	窪津	一今六時過下茅浦にて罷出。大岐浦字波立石より測量始。中食以布理(利)浦。泊り窪津浦九ッ時過着。伊能 市郎右衛門 四人 仁平	朝より晴天。六ツ半頃下茅浦出立。手分し先手坂部、柴山、文助、善八大岐村下浜より初め、以布利浦〔同村方もあり〕を過て〔清水浦より横切の印を松へ残し置き〕窪津浦迄測る。後手我等、下河辺、青木、稲生、佐助下茅浦字鍵掛より初め、大岐村枝郷久百(々)村を過て大岐村下浜迄測って先手の初めへ合測す。後手先手共九ッ頃窪津浦着。止宿本陣真言宗海蔵院、脇宿百姓仁兵衛。此夜中晴測量〔南北の差大十四五分となる〕・清水浦庄屋浜田乙治郎、大岐村庄屋秀平出る。
43	文化5年6月2日	晴天	6月25日	窪津 大谷 足摺峠(中 食)	足摺岬	一今六時窪津浦出立。船にて窪(津)浦の枝郷大谷村江比所より測量始。足摺峠へ至り中食。泊り同所 嵯陀山坊 龍蔵坊 本陣 賀宝坊 ○足摺峠は幡多郡松尾枝郷伊佐浦の内也。即四国三十八ヶ所真言宗補陀落院嵯陀山金剛福寺。本尊觀世音。寺領百石。坊三軒賀宝坊、龍蔵寺蓮華寺 ○足摺七フシキ 天燈龍燈 汐満ヶ石 熊野三所 権現石鳥居 動石 呼亀 地獄穴 鉦石 外に 丑時龍釣 午時雨 犬石 不増不滅水 三股石 多田満仲寄進石燈有。	中晴。先手は六ツ後後手六ツ半頃窪津浦出立。後手は同浦下より初め同枝大谷村迄測る。〔後手は我等、下河辺、青木、稲生、佐助〕先手は坂部、柴山、文助大谷村より初め、伊佐浦の字赤バへを過ぎて伊佐浦の足摺山の門前まで測る。〔足摺山普陀洛院金剛福寺という。国印百石なり。又嵯陀山という。四国三十八番の札所なり。脇房三ヶ寺あり嘉宝坊、蓮華院、隆蔵坊という。止宿本陣嘉宝坊、脇宿隆蔵坊也。〕両手共午前に着此夜晴天測量。

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
44	文化5年6月3日	より雨午	6月26日	松尾 白磔 清水	清水	一今六時出立。足摺岬より四・五丁伊佐湊より船にて松尾浦の内臼婆より測量。雨天に付拂川に着仕廻。清水浦迄来る。止宿昼九時頃也。 止宿 久松惣助 本陣 浜松乙次	朝大曇天。六ツ後足摺山止宿坊出立。手分し後手我等、下河辺、青木、稻生、佐助足摺山止宿前より初め、伊佐浦松尾浦〔同村もあり迄測る〕。朝出より微雨小雨松尾浦の前より中雨松尾浦中食〔宿升屋利八家作も可なり〕にて見合居る。小雨になる。よって大雨測量難成迄測らんとして中食後同所より同村ウスバへ迄測て先手の測初へ合す。それより乗船又大風雨になる。八ツ半頃清水浦へ着。先手坂部、柴山、文助、佐助松尾浦字ウスバへより初め、同浦字弘川迄測て中食雨降る。よって止て乗船九ツ半頃に清水浦〔上湊なり深八間〕へ着。止宿本陣庄屋浜田乙治郎〔仮の亭主大黒屋市右衛門〕、脇宿大黒屋貞右衛門。着後雨益々降る。当郡付添案内間崎村庄屋安岡爲七、伊佐松尾両浦郷庄屋幸治郎出る。此夜も雨。
45	文化5年6月4日	晴天	6月27日	中浜 大浜 弘川	清水	一今六時過清水浦出立測量。昨日打残迄相量中浜・大浜浦界沸川。昼後過清水浦再宿。	朝より晴天。同所逗留手分の測・我等、下河辺、青木、稻生、佐助清水浦止宿下より測り、同浦字赤木浜迄測り括れより山越横切以布利浦迄測。朔日の先手残印松へ繋ぎそれより引返し赤木浜より初め〔鹿島の周囲を測り〕、字清水浜にて別手の残杭へ合す。坂部、柴山、文助、善八清水浜より測初め、中浜浦大浜浦へ逆測し、昨日測留松尾浦の内字弘川迄測る。それより乗船清水浜にて両手出合い、一同蔵掛山へ登て山島を測り共に八ツ半後帰宿。此日終日晴天、此夜亦晴て測量。案内当郡付添間崎源左衛門、安岡篤七、忠太衛門三人、浜田乙治郎其外村役人、浦方下役宮崎竹助、浦方横目岡本忠治郎、広瀬亀八〔右三人は当国入口より付添なり〕・郡方下役秋尾九郎内、普請方下役生原弥五右衛門、森本喜之助、改方池田利作両手へ日々付添・〔以下は略〕

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
46	文化5年6月5日	晴天	6月28日	養老三崎(中食) 白浜	三崎浦	<p>一今六時頃清水浦出船。越浦の内養老浦より始。中食三崎浦の内白浜泊り昼四半頃着。</p> <p>三崎浦 四人宿 周助 本陣 信蔵</p> <p>○幡多郡三崎の浦の内龍串名所 当麻浜 男鉢森 女鉢森 額石 布簪 竹簪 甲簪 千人洞 獅子簪 鹿の角石 龍門の滝 手鞠石 蹴鞠石 紺屋の小紋石 面向不拝山 盲人石 礫石 岡の石 千畳岩 梅の古木岩 上段懸り石 紫雲石 夢の浮橋 桜浜 見知つれぬものとはなしに田づくしの 岩間の松 のなれて久しき</p>	<p>朝中晴〔日出前赤し〕。六ツ半頃清水浦出立。手分し先手坂部、柴山、文助、善八越浦枝郷養老浦より初め、益野浦〔即三崎浦枝浦〕を歴て三崎浦迄測り九ツ頃着。我等、下河辺、青木、稻生、佐助清水浦止宿下より初め越浦迄測る。〔此所にて又小手分し越浦より逆に清水浦塩浜造横切り、それより昨日の赤木浜より以布利浜横切へ繋ぎ〕、それより同浦枝郷養老浦にて先手の初杭へ合測し、それより乗船八ツ半頃三崎浦へ着。止宿三崎浦庄屋代中村伝五右衛門、脇宿医師泥谷孝達。両手共に着後同浦字当麻の下即下川口浦の竜串の浜の景色異石を一覧す。三崎郷庄屋矢野川虎蔵、清水浦庄屋浜田乙治郎案内。</p>
47	文化5年6月6日	昼後より	6月29日	明神鼻	三崎浦	<p>今朝雨天に付見合。昼九時頃より先生、柴山、文助出立。明神崎測量当麻浜に打終る。夕七時頃三崎止宿江帰る。</p>	<p>前夜より雨。同所逗留。四ツ半頃我等、柴山、文助、佐助当浦下より測初め、千尋山の岬を回り三崎浦下川口浦の界あり。界を越て下川口浦地内に窪浦という人家なしの湊あり。深六七尋大船二十艘掛り居るといふ。それより三崎浦持の字当麻人家即下川口浦地内迄測る。</p>
48	文化5年6月7日	有測量	6月30日	竜串長崎桜浜(中食)	下川口	<p>一今六時過三崎浦出立。測量始龍串海岸より長嶋を歴て中食桜浜。泊り河口浦四時過着丹右衛門</p>	<p>朝より晴天。六ツ半頃三崎浦出立。〔我等、下河辺、稻生三人は下川口浦止宿へ先行し地図を調、青木乗船海岸を図す。〕坂部、柴山、文助、善八一手にて同浦下より初め、同村字当麻より下川口浦持海岸字竜串造横切り、それより竜串、桜浜を歴て〔弁天崎一周を測り〕三崎浦枝爪白〔人家あり〕を過て四ツ頃下川口浦へ着。止宿は本陣升屋亀之助、別宿庄屋佐井弥四郎。下川口村庄屋宮崎順蔵、伊佐松尾浦郷庄屋幸治郎、清水浦庄屋浜田乙治郎其外村役人案内〔界造付添役人村役人は略〕。此夜晴天測量。</p>

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
49	文化5年6月8日	晴天	7月1日	貝ノ川 叶崎 大津（中食）	小才角	<p>一今六時出立。船にて貝の川浦迄相越測量始。大津叶崎を過て中食大津浦。泊り小才角浦 庄や 河内民之亟</p> <p>一伊能氏、下河辺、青木、秀蔵は大津浜泊り此方は先手当所迄来り泊る。</p> <p>一江戸表四月廿一日、五月十日出之状今日着。</p>	<p>朝晴天。六ツ半頃下川口浦出立手分す。後手我等、下河辺、青木、稲生、佐助同村下より初め、同村枝郷片粕村〔家二軒を〕歴て貝ノ川迄測り、先手の初へ合測。それより乗船四ツ頃に大津浦へ着。本陣大津郷浦庄屋代上岡弁之丞仮亭主俵屋鉄之丞、別宿粟津屋直兵衛。曆局より高知届用状五月十五日相認七ツ頃に届く。先手坂部、柴山、文助、善八貝ノ川浦より初め、大津浦を歴て〔小戈角浦前に小戈角村あり〕小戈角浦迄測て此浦に着止宿。九ツ頃着。川内民之丞即庄屋なり。</p>
50	文化5年6月9日	八ッ時曇	7月2日	大浦 朴崎 西泊	西泊	<p>一今六時小才角浦出宅。船にて尾浦の内木の川より測量。ほうの崎と言大難所を経て西泊浦昼八ッ時前着。</p>	<p>朝曇天。後手は六ツ頃大津浦出立。乗船直に小文角浦に至て測初め、尾浦を過て同浦字朴ノ川にて先手測初へ合す。それより大島半周を測る。先手坂部、柴山、文助、善八六ツ頃小父角浦を出立。乗船朴の川より初め西泊浦迄測る。両手共九ツ後西泊浦へ着。本陣新屋伝右衛門、脇宿新屋千三郎。九ツ半頃より雨。伊予宇和島郷目付二宮長太夫測量御用向見聞に来る。</p>
51	文化5年6月10日	雨即刻	7月3日	尻貝 古満目	浦尻	<p>一今六時頃西泊浦出船。船にて尻貝より測量始。中食小間目入口川浦尻泊り小間目浦。昼九時過着。</p>	<p>朝大曇天。六ツ半前後西泊浦出立。手分し後手我等、下河辺、青木、佐助。稲生病気。止宿下より初め、檜ノ浦周防形浦〔中湊なり〕を歴て古満目浦字尻貝迄測る。先手坂部、柴山、文助、善八古満目浦字尻貝より初め、古満目浦迄測り四ツ後に済。後手九ツ後に着。〔古満目浦止宿〕本陣庄屋儀助、脇宿年寄伴五右衛門。此夜晴天測量春遠村庄屋岡本半内出る。此浦能湊なり。然し当国の端なれば通船も少く、又川もなく在とも遠ければ薪等も不出繁昌も少し。清水浦庄屋浜田乙治郎帰村す</p>

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
						一今日六時出立。柏島迄測量。自分不快に付即駕籠にて泊り柏島止宿迄参る。木曾之巫。	朝曇天。先後手共六ツ後古満目浦〔旧いわく古間目浦〕出立。先手坂部、青木、文助か善八古満目浦より初め〔海岸絶壁難測量〕、海辺際の山道新道〔海辺は不残古満目浦分〕を歴て平山村頭集村枝郷一切村、此村家六七軒にて村浦ともにあり境字篠津峠迄測り八ツ半頃に柏島浦へ着。先手我等、下河辺〔庄作手伝佐助〕右平山村一切村界より測〔初後手同様海岸絶壁難所〕、山坂本道を〔一切村柏島浦境に印杭を残し〕柏島浦迄測り八ツ頃に同村着。止宿本陣真言宗広布山法蓮寺、別宿升田屋又太郎。此夜測量。柴山、稲生病気。〔此日古満目浦より測る。後手の測所は悉く海辺。古満目浦分先手測篠津峠より下の海辺も大概古満目浦分本道より柏島浦へ渡り口より逆に岬を回り、渡口より大凡にて十二町程外海柏島分にて、余は古満目の海と柏島庄屋いう。〕
52	文化5年6月11日	薄曇昼後	7月4日	柏島	柏島		
						天本陣法華法蓮寺 一今六時過出立。当所より海上沖の嶋へ渡海。嶋周廻五里余〔土州予洲〕两国之境半分也。 一自分不快に付、柏嶋逗留。沖嶋江者不渡。	朝中晴。六ツ後柏島浦一同乗船。〔柴山病気に付柏島浦へ残し置。佐右衛門は長持其外荷物残に付差置く。〕三里沖島へ渡海。当島は、土州高知領予州宇和島（伊達十万石）領界なり。即界の下乗即大石五ツ半頃に着。領界へ宇和島出役郡方横田儀兵備、同森丈右衛門、郷目付今田善右衛門付添案内。正木村（一本松町）庄屋蕨岡助之丞、同僧都村（城辺町）庄屋九左衛門待り居る。直に手分坂部、文助領界即国界下乗より初め、宇和島領沖島の母島浦迄測て止宿、一向宗徳法寺。我等、下河辺、青木、稲生領界下乗より初め、土州領沖島弘瀬浦山上迄測り七ツ頃に弘瀬浦へ着。止宿本陣中島屋善左衛門、脇宿久佐屋友之丞。此夜晴天測量。
53	文化5年6月12日	晴天	7月5日	沖の島	沖の島		
						一今日沖嶋測量。昼八時頃帰る。柏嶋泊り。 一自分不快に付、柏嶋逗留。	朝晴。我等、下河辺、青木、稲生、佐助母島浦下土州と宇和島領界より初め、昨日測留へ繋ぎそれより岬へ向い海辺へ引下し海岸今朝測初の領境迄測る。坂部、文助、善八宇和島領母島領よりはじめ、母島浦持の古矢浦を歴て弘瀬浦下宇和島領と土州領界迄測り、両手合測共に四ツ半頃乗船して柏島浦へ八ツ半前後着。止宿同前。
54	文化5年6月13日	晴天	7月6日	沖の島	柏島		

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
55	文化5年6月14日	晴天	7月7日			一今六時過出立〔先生、下河辺、青木、文助〕柏嶋周井打越し、自分不快に付不出。	同所逗留測。朝曇晴。六ツ半頃我等、下河辺、青木、文助、佐助当柏島浦一周を測る。坂部稲生地図を成。それより乗船同浦向地字竜ノ浦より初め一切浦迄測る。又一切村柏島浦界十一日印杭より初め横切一切浦下迄測り八ッ頃より帰宿。午後より曇。
56	文化5年6月15日	朝四時迄	7月8日	一切蜂ノ巣	橘浦	一今六時過柏嶋出立。一切浦の内字鯛の浜より測量始。天地浦の内字蜂の巣に終る。泊り八時頃着。不快全快に付今朝より出る。 橘浦 本陣 彦五郎 四人 百姓安次郎 当浦家数三十斗也。小浦也。	曇晴。手分し先手我等、下河辺、青木、稲生、佐助柏島浦六ツ後出立。安満地浦〔古くは天地浦というよし〕字蜂ノ巣より初め、安満地〔此所の湊はよし〕浦を歴て橘浦此所も能湊也下迄測る。後手坂部、柴山、文助、善八柏島浦六ツ前出立し乗船一切浦下昨日印杭より初め、安満地浦の内字蜂の巣迄測る。後手は八ツ前先手は七ツ前に橘浦着本陣庄屋彦左衛門、別宿易治郎。此日四ツ頃より辰巳風にて度々雨。
57	文化5年6月16日	雨より止。	7月9日	橘浦泊浦	橘浦	一今日雨天。且伊能不快依之当橘浦逗留。一今九時前より雨止に付出立。坂部・柴山・秀 当所海岸より測量始。泊浦字古泊に終る。夕七時後橘浦泊江引返。	前夜より小雨見合し午前雨止む。同所逗留にて仕越測・坂部、柴山、稲生、善八当浦下より初め、泊浦を歴て同浦の内古泊浦迄測りセツ後に帰宿。我等病気。
58	文化5年6月17日	雨頃雨降。	7月10日	古泊	小筑紫	一今六時過橘浦出立。柏（泊）浦之内古泊より始。小尽浦の内蛤形にて中飯。泊り小尽浦夕七時前着。 本陣 米屋 別屋 米屋寺兵衛	曇天朝。六ツ頃橘浦出立。坂部、柴山、下河辺、稲生、佐助一手にて〔青木図別に乗船。我等病気。共に止宿へ先行〕昨日測留古泊浦より初め、小筑紫浦枝浦榊（栄喜）浦の内字タッチ迄測り八ツ半頃に小筑紫浦着。止宿本陣米屋千蔵、米屋寿平。此日午前より辰巳風小雨。
59	文化5年6月18日	雨。終	7月11日	滞留	小筑紫	予州宇和島絵図持参横目 一今日雨天に付小尽浦滞留 ○此小尽之浦に七日嶋とて周り地方より七、八間離れ木生の嶋あり。昔菅家筑紫へ左遷之時此嶋に御船七日懸りしと也。その節此所に音楽ありしかばその響き松にも響きしとて、ひびきの松とて今に其辺に松あり。 ○此所にては蚊屋を用ひけれとも、是迄かやを用ひし処は漸々三、四度ならではなし。此節まで朝夕は袷を着せしなり。尤当年六月閏月ありて節も遅きゆへとはあるけれども、一鉢此辺南海の海岸にて風吹けば、暑気も薄くかもなしと思ける。	朝曇天微雨。同所逗留五ツ半後より雨。

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
60	文化5年6月19日	雨。終	7月12日	滞留	小筑紫	一今日雨天に付小尽浦滞留。 一今日昼前より雨止に測量出立。二手測〔坂、柴、文〕止宿前より逆測して、十七日打上。榊浦字田土にて終る。小尽浦滞留。	朝より雨。同所逗留。夜も辰巳風雨。 朝大曇。汐間を見合し五ッ頃より初め同所逗留。手分し我等、下河辺、青木、稻生〔佐助病気に付庄作藤吉〕同所〔即小筑紫浦〕止宿下より初め、〔先七日島周囲を測り〕海辺通大海浦を歴て湊浦蓮測る。それより岡道横切り湊浦より伊与野村〔所々に家六十四軒〕を過て小筑紫浦迄測り九ツ半頃帰宿。坂部、柴山、文助、善八小筑紫止宿下より手分し福良村〔家三十軒斗〕を過て小筑紫浦枝榊浦〔家二十軒斗〕の内字タッチ迄測り十七日測終へ合す。八ツ前に帰宿。此夜曇る。晴間測量。弘見村庄屋円助、二宮村庄屋下村藤左衛門、大島浦庄屋小野久左衛門案内。
61	文化5年6月20日	曇天	7月13日	栄喜（榊浦）	小筑紫	一今六時小尽浦出立。大嶋江渡船一里余同属大藤嶋、桐嶋、威陽嶋相測。昼後雨降出。半途より止宿へ引泊り。八時前大嶋〔本陣別宿〕清水屋新八	暁七ツ頃雨それより大曇。六ツ後小筑紫浦出立し乗船直に雨降出す。我等、下河辺、柴山、稻生、佐助大島浦着て雨止み、それより同所止宿下より右人家左海に添い大島浦半周余を測る。又小手分して我等、下河辺、庄作、藤吉桐嶋一周成陽島半周を測り雨降り出す。柴山、稻生大峠（藤）島一周雨降り出す。坂部八青木、文助、善八湊浦共に測留より初め、小浦枝内野浦同外浦それより小浦を歴て同浦字小浦崎迄測り九ツ後に着。我等方は九ツ半頃に大島浦着。本陣庄屋小野久左衛門、別宿浪人小野善治郎。雨不止終夜大降。前夜より続て大雨。同所逗留。八ツ後曆局行書状一封宮崎竹助へ渡。即高知へ継送という。それより小雨中。東河、下河辺、稻生、佐助大島浦止宿下より逆測〔海を右に人家を左〕大島浦半周を測り昨日測止へ合す。それより引返し市島一周を測る。坂部柴山文助善八片島一周を測る。両手共七ツ後帰宿。雨続て降る。
62	文化5年6月21日	前より	7月14日	大島 威陽島	大島	一今年午後少々雨止に付二手出立測量。自分片嶋周廻測量矢張大嶋滞留。	
63	文化5年6月22日	。今日	7月15日	片島	大島		

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧暦	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
64	文化5年6月23日	々々晴暑	7月16日	藻津 宇須々木	宿毛	<p>一今六時過出立。二手測〔先生・自分・下河辺・秀〕大嶋属池の浦嶋、丸嶋井土佐国幡多郡藻津村・伊予国宇和郡脇本村界より、逆測にして宿毛浦枝宇須々木村加波村に至り両手合測終る。 ○此日より暑強甚強し。泊り宿毛浦八時過着。</p> <p>別宿 伊予や忠左衛門 本陣 東や和平</p> <p>○今日迄にて土州一國海岸測量済。地方計り通計〔阿州界より予州界迄〕土佐国百三十三里嶋共百六十五里。</p>	<p>暁大雨朝大曇天。六ツ後大島浦出立。手分し我等、柴山、下河辺、稻生、佐助丸島池ノ浦島周囲を測り、それより乗船土州予州界に至り同所より逆に藻津村それより貝ヶ崎〔藻津村の内〕、宇須々木村を歴て宿毛村の内樺〔又は加波〕村加波崎にて手分と合測。坂部、青木、文助善八二十一日測留小浦崎より初め、宿毛村枝坂ノ下村を過牛背川を渡り宿毛村堤を通り同村枝郷錦村〔同宿毛枝郷〕小深郷浦、大深郷浦〔又宿毛村の枝〕樺〔又は加波〕村を歴て加波崎にて手分へ合測。一同に乗船し九ツ半後に宿毛村へ着。本陣大庄屋小野久治右衛門、梓小野克治家作よし。別宿郷士立田幸治郎。是造案内湊浦庄屋国治、小浦庄屋又右衛門、大海浦庄屋喜三郎暇乞に出る。休泊賄方古井愛蔵、真田源蔵、賄方人見喜助同断。甲浦高知より日々手伝人足共是より帰る。</p>
65	文化5年6月24日	昼後に	7月17日		藻津	<p>一今年後宿毛浦出立。不残駕籠に而大深浦番所前通り、岡崎にて凡二里余にして藻津村に至る。昼八時過着。 庄や又三郎方離家 本陣又三郎方</p>	<p>朝曇四ツ頃より晴天。勘定方松崎忠蔵暇乞に出る。秋尾九郎内、宮崎竹助、岡本忠治郎其外出る。それより午前に中食し無測量にて一同乗駕籠八ツ頃藻津村に至る。止宿本陣庄屋又三郎、別宿同人隠宅。此止宿造郡方下役秋尾九郎内、浦方下役宮崎竹助、横目岡本忠治郎、同広田亀八〔上三人は甲浦より此所造日々付添〕、同窪田門八、今橋恵助、高橋武助、岡本鉄作暇乞に出る。山改役池田利作普請方下役森本喜之助、賄方三木義四郎同断。 〔此日間清市郎へ書状認め宮崎竹助に渡す。〕</p>
66	文化5年6月25日	天。有	7月18日	西泊 深浦	深浦	<p>一今六時過藻津村出立。岡道三、四丁にて土佐国幡多郡宿毛浦枝藻津村伊予国宇和郡御司（庄）組外海浦之内脇本村之界梶示碧にて、土州役人不残罷出相別れ、同所にて伊予国宇和郡脇本村伊達遠江守郡方手代三人、同横目兩人、其外庄屋等罷出。此所より測量始る。 坂部、柴山、文助、伊能、下河辺、青木、小い能、自分先手。此所より船にて西泊迄罷越。此所より測量始深浦に至て泊り。深浦七時前着。</p>	<p>朝曇天。六ツ後藻津村出立。一同に先土州予州国界に至り、土州方下役、浜方下役、横目、普請方下役、山改役不残界造送別す。</p>

伊能忠敬土佐測量日記

No	旧曆	天気	1808年	調査場所	宿泊	伊能測量隊旅中日記	伊能忠敬測量日記
67	文化5年6月26日	晴天無風	7月19日	鵜来島	深浦	一今曉七時前不殘出船〔但下河辺、文治、不参〕宇和郡外海浦属卯来嶋江渡海也。七里朝五半時頃着。二手測。山左坂戸、柴山半周、右手半周全測上。昼八時前嶋出船、夕七時頃深浦江帰着。 ○今日土用入○元締役金子孫之巫入来。	

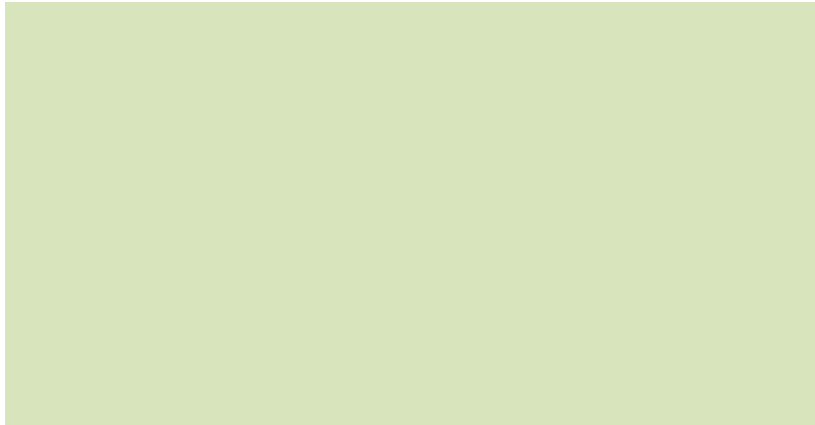
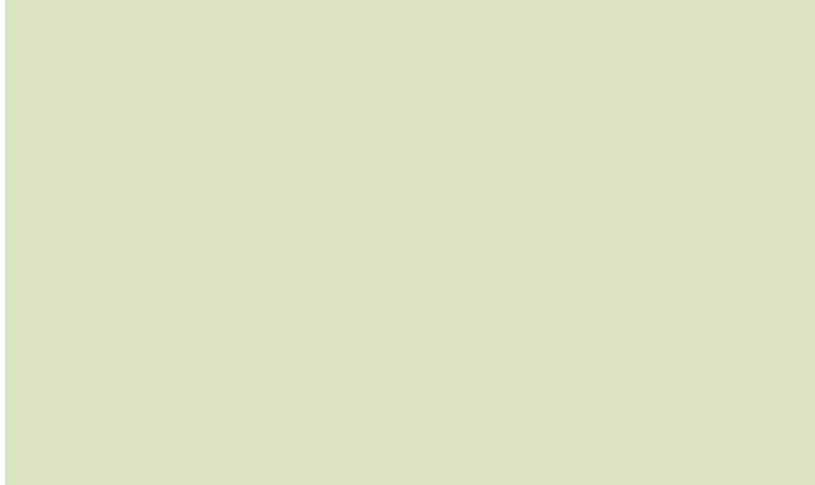
奥宮測量日記

淀の磯、入来、鹿岡山、日置坂、椎名、三津

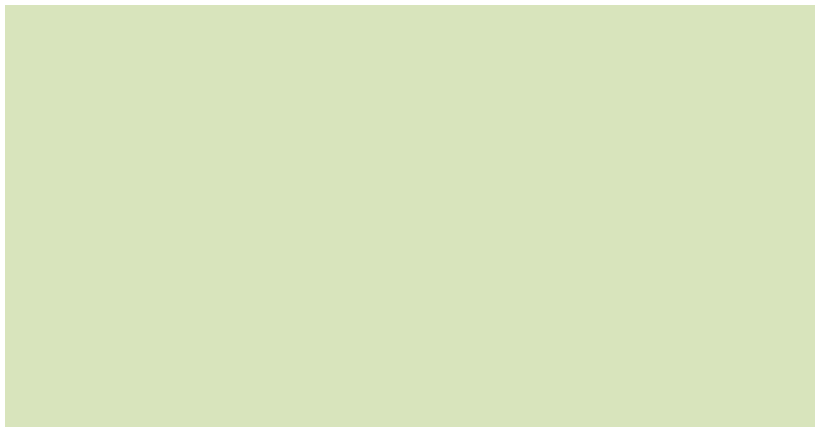
岩屋、津呂、

津呂、

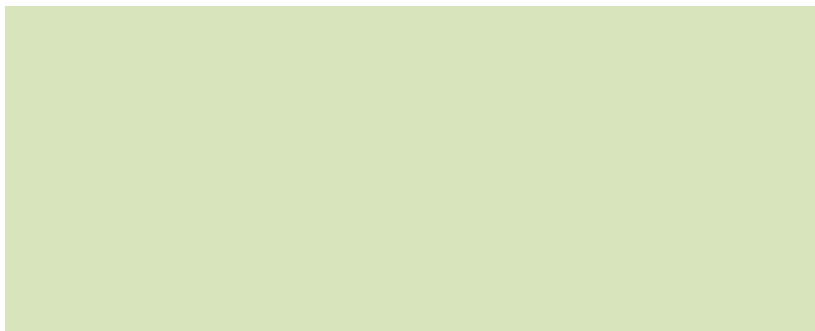
奥宮測量日記



奥宮測量日記

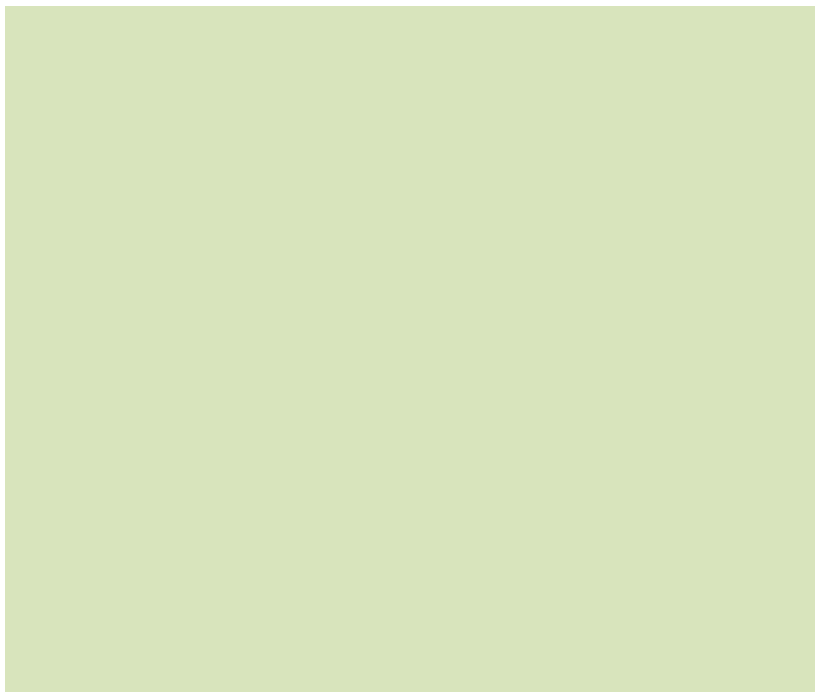


奥宮測量日記

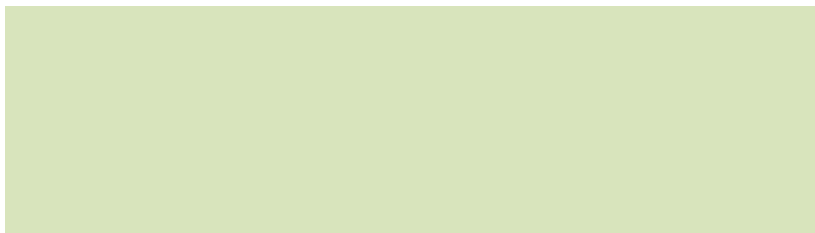


奥宮測量日記

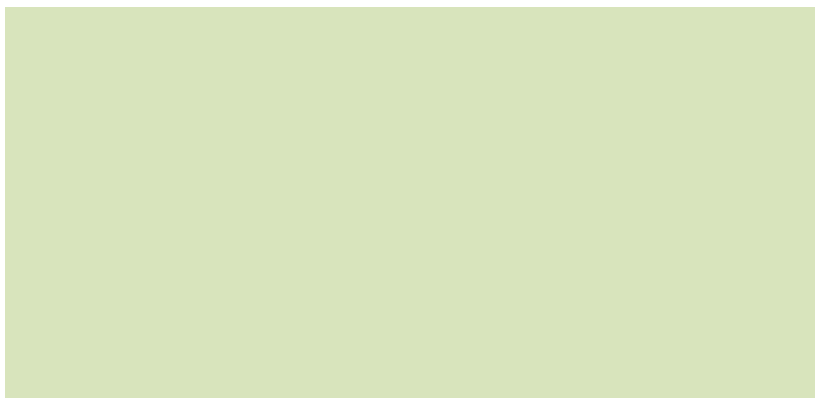
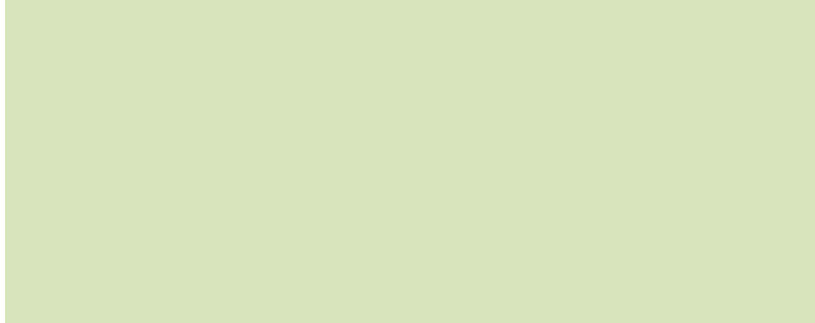
奥宮測量日記

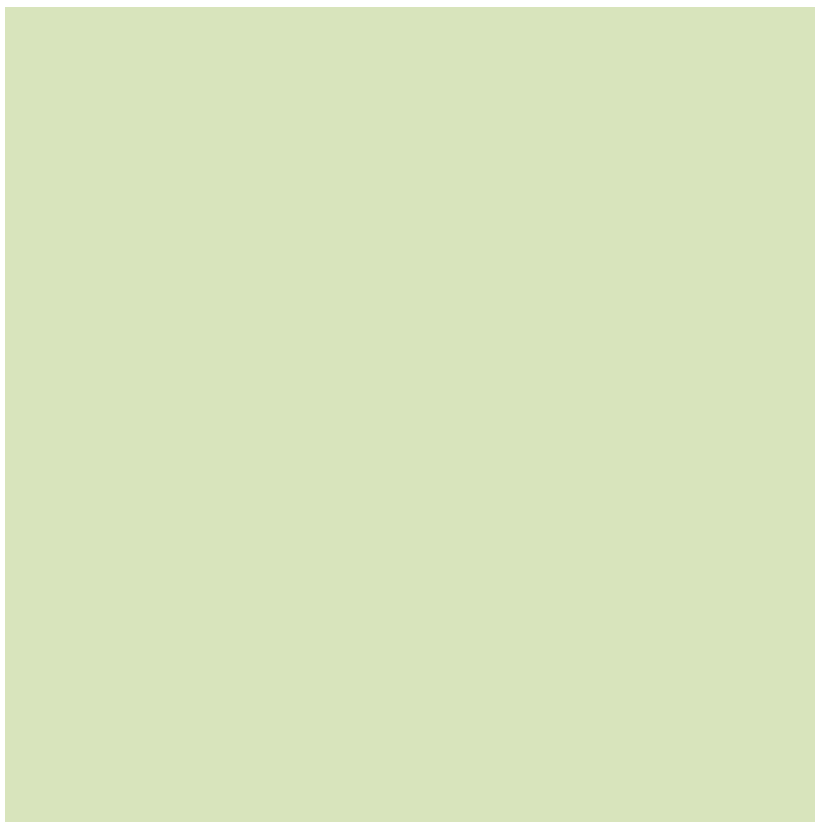


奥宮測量日記

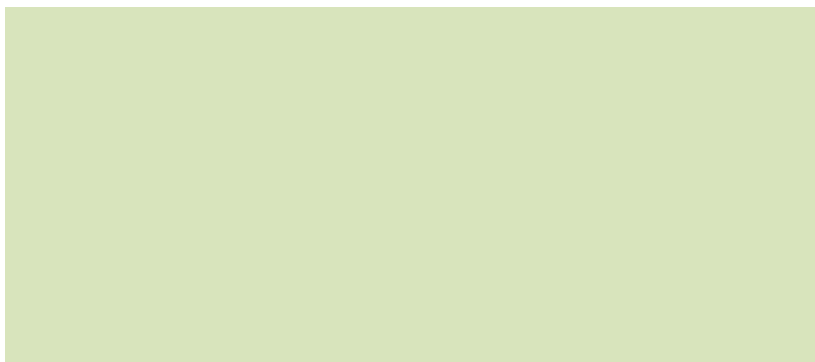
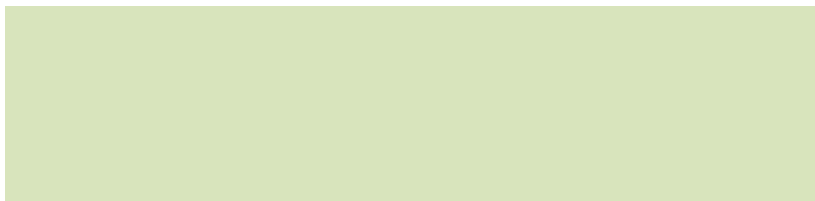


奥宮測量日記

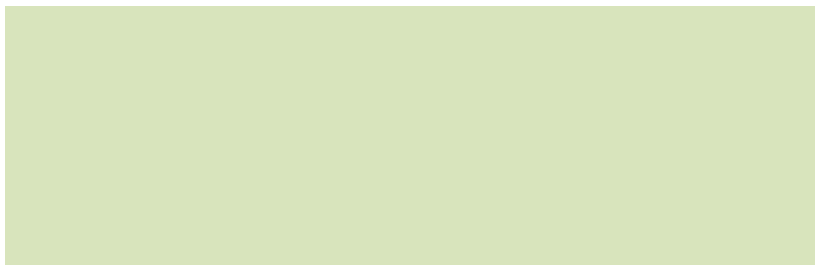




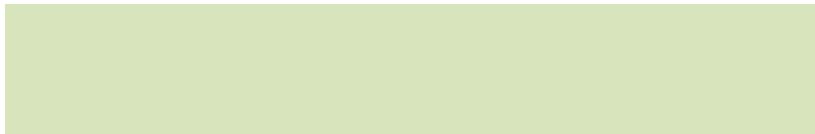
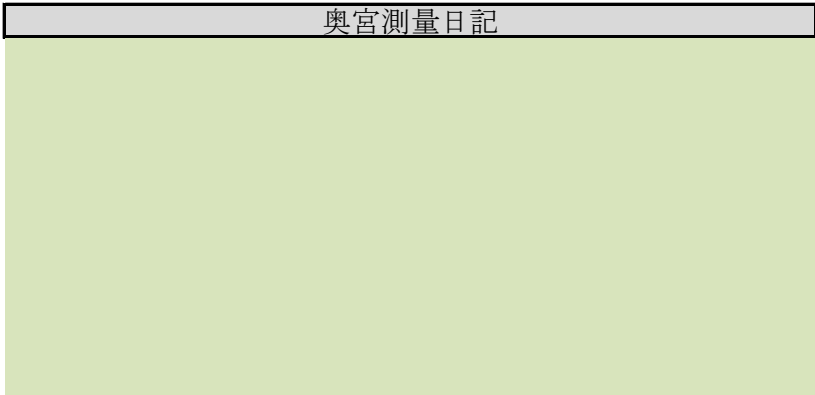
奥宮測量日記



奥宮測量日記

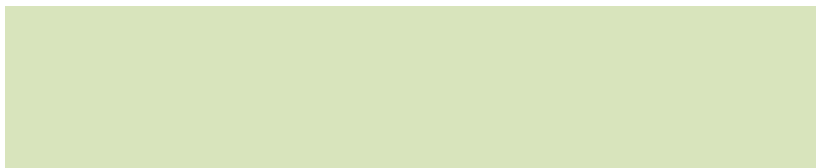


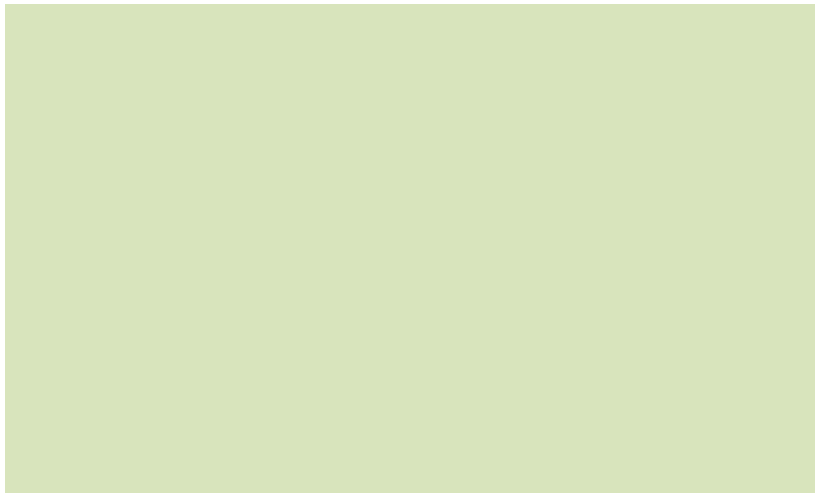
奥宮測量日記



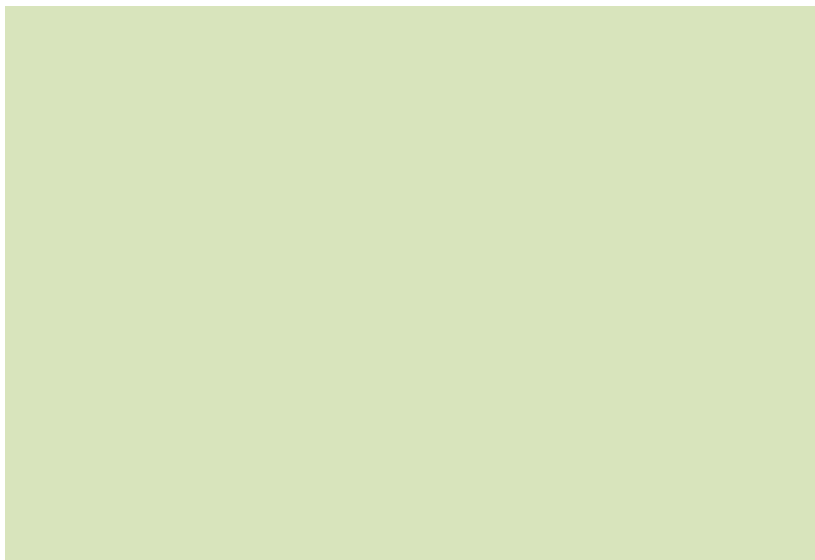
奥宮測量日記

奥宮測量日記

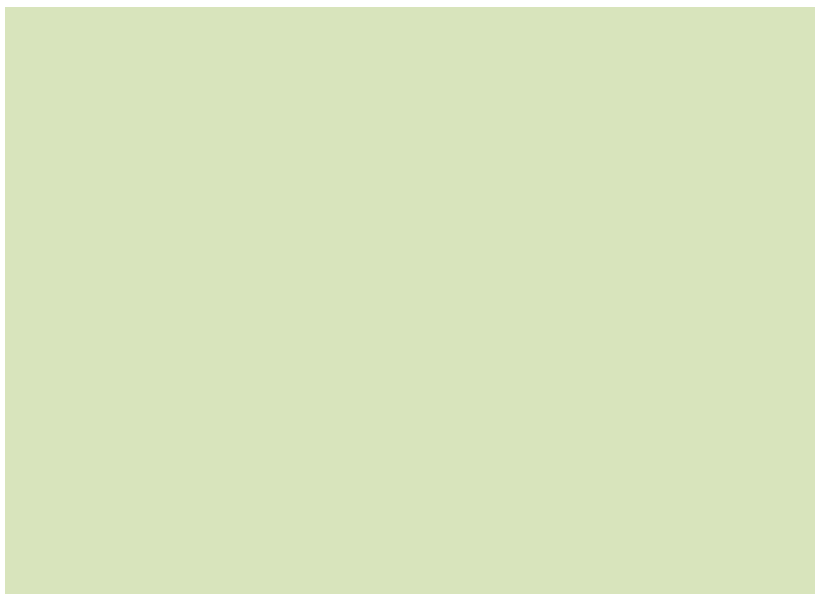




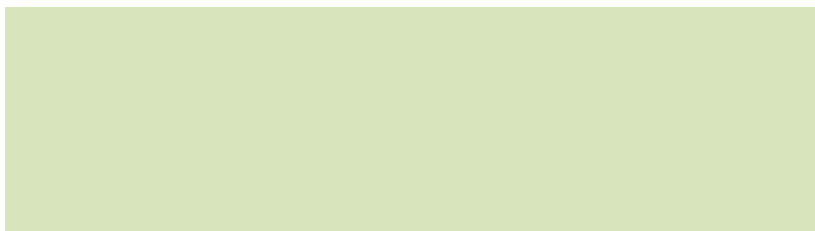
奥宮測量日記



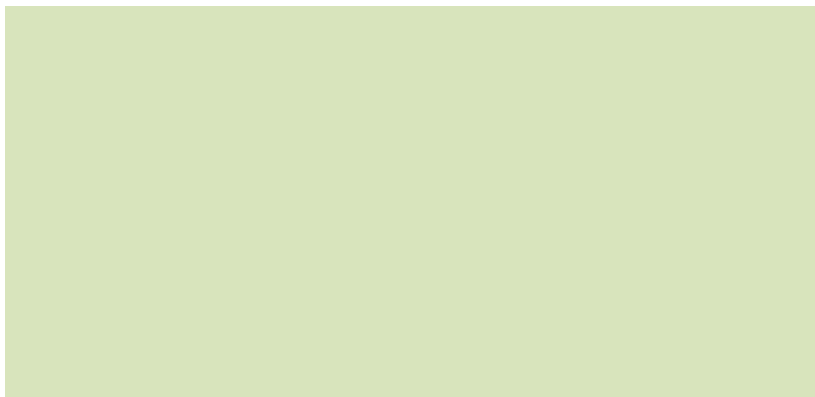
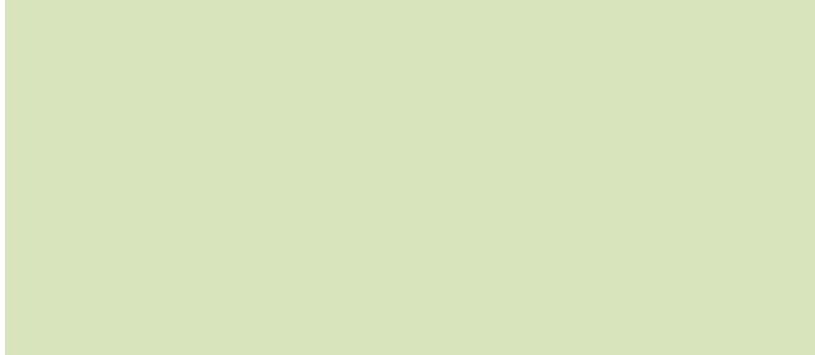
奥宮測量日記



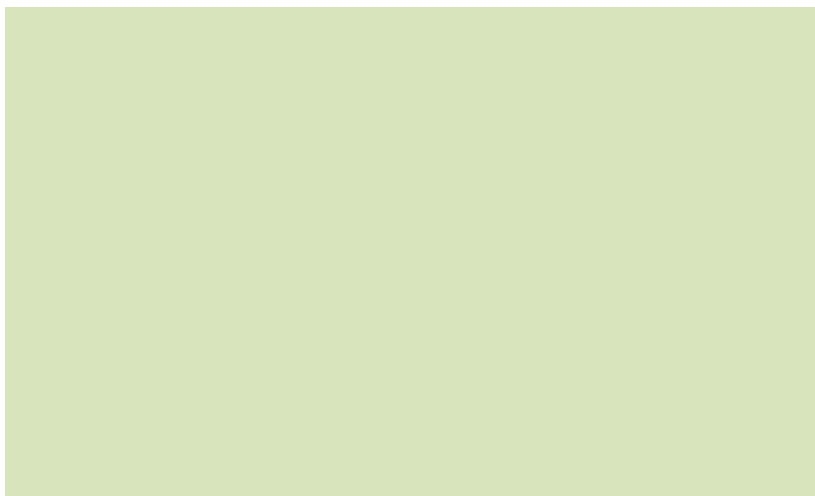
奥宮測量日記



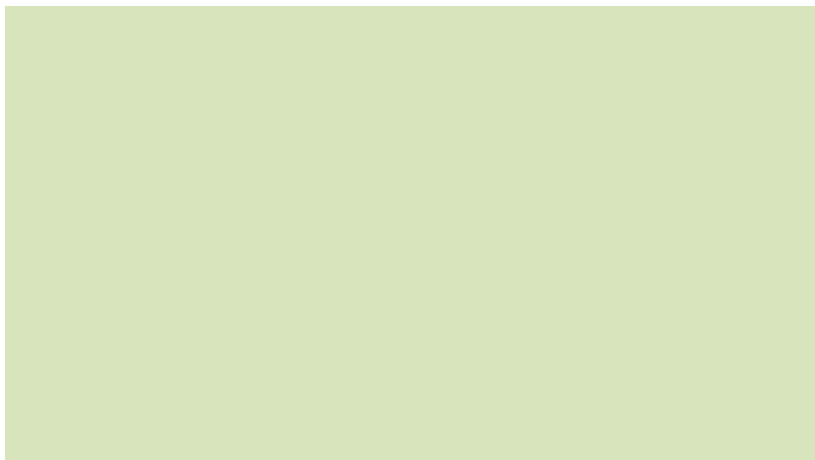
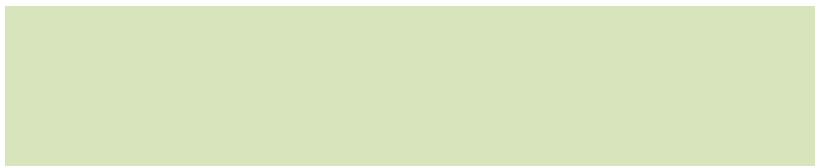
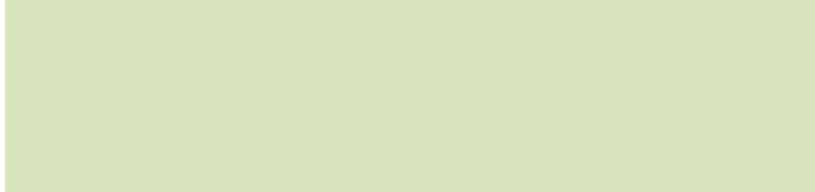
奥宮測量日記



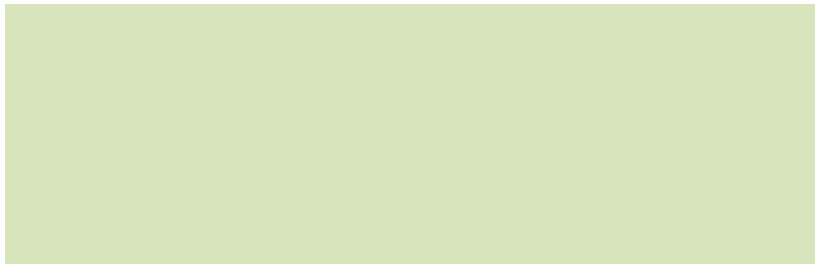
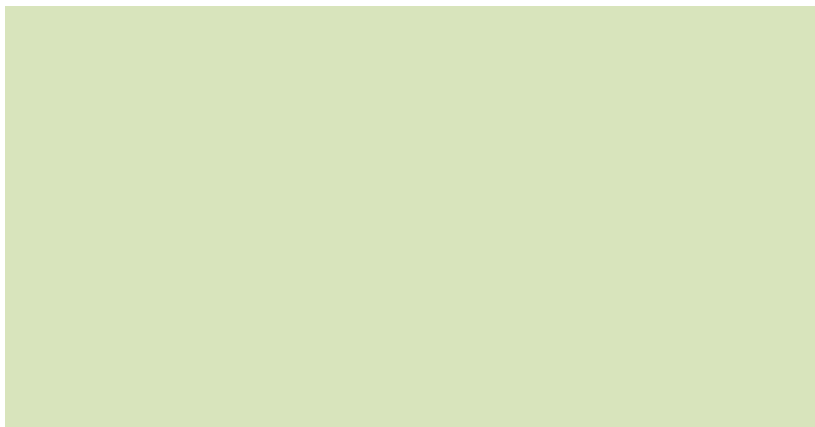
奥宮測量日記



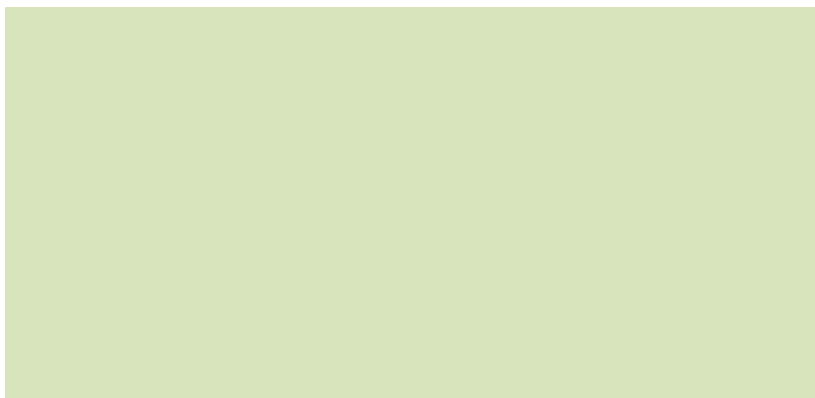
奥宮測量日記



奥宮測量日記



奥宮測量日記



奥宮測量日記